

茎数確保に向け浅水管理の徹底を！！

1 気象経過と生育状況

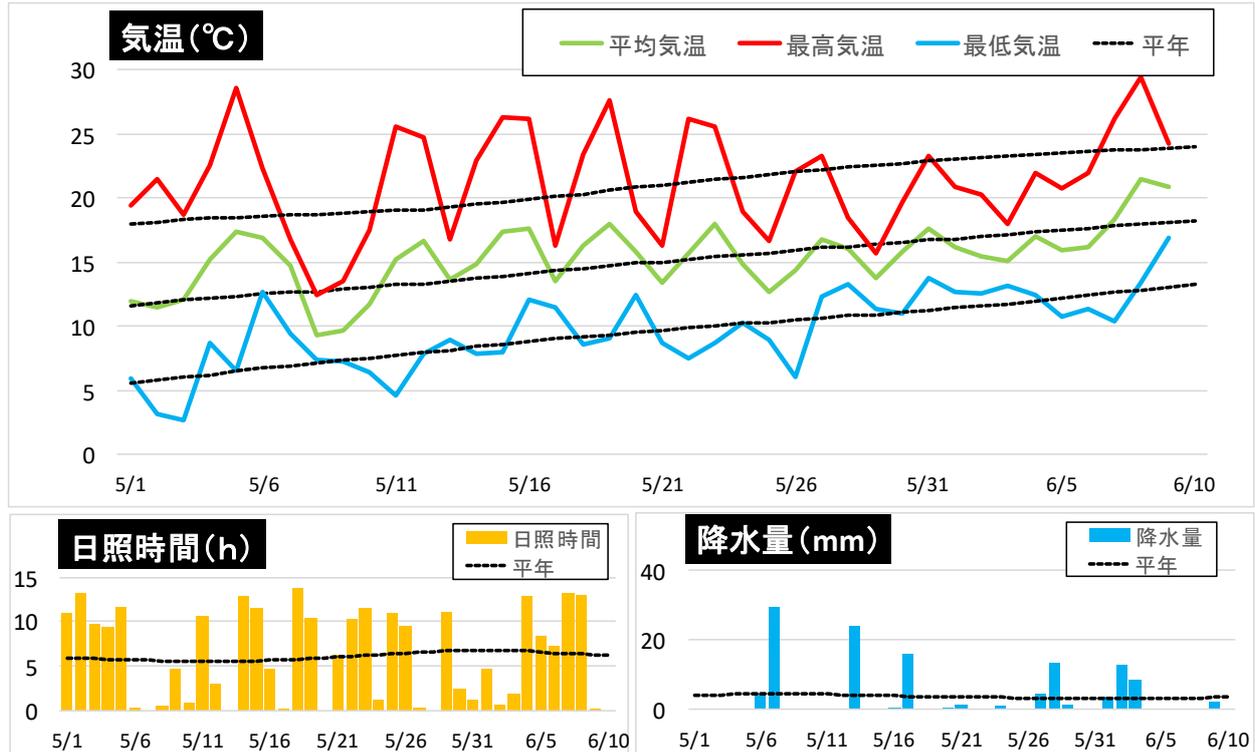


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

【気象経過】

5月以降の気温は周期的に、急激に変化しました。また、特に5月6半旬から6月1半旬にかけては降雨が多く、日照時間が少なかったため、気温の日較差が小さくなりました。（図1）。

【田植え時期の気象】

管内の田植え作業は、始期が5月15日（平年並）、盛期が5月22日（平年+1日）、終期は5月29日（平年+1日）となりました。田植え翌日から5日間の移動平均気温は、作業期間をとおして中苗の適温とされる14℃を上回っており、田植え後の活着は概ね良好だったと考えられます（図2）。しかし、田植直後に低温・強風に遭遇し、代枯れや活着が遅れたほ場が多く見られました。

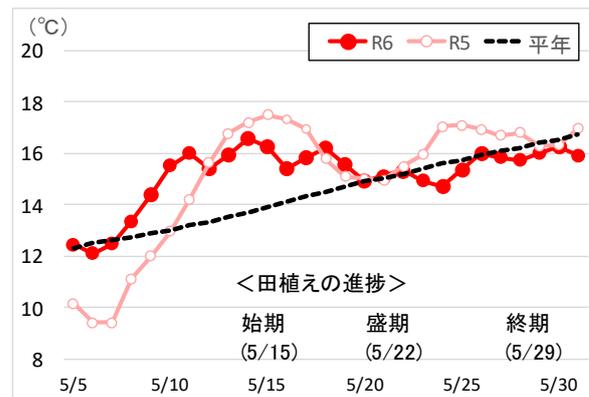


図2 田植え翌日から5日間の移動平均気温の推移（アメダス鷹巣）

【生育状況（定点調査結果）】

6月10日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）は、草丈が平年より短く、茎数が少なく、葉数が平年並となりました（表1）。また、ほ場間差がかなり大きくなっています。5月5半旬以降、気温の日較差が小さい日が多かったため、分けつの発生が緩慢になったと見られます。

表1 定点調査結果（6月10日）

	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉数(葉)
本年	25.7	166	6.5
平年	27.3	189	6.4
前年	27.0	157	6.2
平年比	94%	88%	0.1
前年比	95%	106%	0.3

2 当面の水管理

【茎数確保に向けた水管理】

- 分けつ発生は、日平均水温が23～25℃で、昼夜の水温較差が大きい場合に促進されます。このため、かん水は水温の低い早朝に短時間で終わるようにし、日中は止め水とすることで、地温と水温の上昇を促進します。
- 活着後は基本的に浅水管理とし、水温と地温を高め、分けつの発生を促進しますが、日中の最高気温が15℃以下の低温時は深水にします。

【異常還元（ワキ）対策】

- ほ場に足を踏み込んだ時に勢いよく気泡が発生し、下葉の黄化や赤褐色斑点が多く見られる場合は、落水や間断かん水を行い、根の健全化を図りましょう。
- 落水する場合は、除草剤やオリゼメート粒剤等の散布後日数に注意してください。

【適期中干しによる弱勢茎の抑制】

- 中干しを行うことで、弱勢茎（穂になりにくい茎）の発生を抑制するとともに、受光体制が良くなるため、倒伏軽減効果が期待できます。
- 目標穂数と同数の茎数（70株植では1株あたり20本程度、60株植では1株あたり25本程度）を確保したら、直ちに中干しに入りましょう。中干しの期間は7～10日ほどで、軽く足跡が付く程度（亀裂が1～2cm程度）を目安とします。
- 溝掘りを行うことで、その後の水管理や秋の刈取作業を円滑に行えるようになりますので、積極的に行ってください。

3 病虫害防除対策

【葉いもち防除】

- 初期の発病を抑えることで、その後の葉いもち発生量及び穂いもちの伝染源を減少させることができます。葉いもち防除として箱施用剤や側条施用剤を使用しなかった場合は、オリゼメート粒剤を6月15日頃（6月12～18日）に10aあたり2kg散布します。
- オリゼメート粒剤は湛水状態で田面に均一に散布し、散布後4～5日間は水を入れないようにします。また散布後7日間は止め水とし、かけ流しや落水は行いません。
- 補植用余り苗は、いもち病が発生しやすく周辺ほ場への伝染源になります。ほ場に放置されている余り苗が散見されますので、直ちに泥に埋めて処分してください。

【斑点米カメムシ類対策】

- 田植え後に田面が露出しているほ場が一部で見られます。そのようなところではノビエやホタルイ類等が残草する可能性が高く、斑点米カメムシ類の増殖源となります。草種に応じて中・後期剤を適切に散布し、雑草対策を徹底してください。また、高温により雑草の生育が早まる場合があるため、雑草の生育状況を確認し、処理時期が遅れないようにしましょう。
- 病虫害防除所による発生予報（令和6年5月28日発表）では、斑点米カメムシ類の発生時期は早く、発生量が多いと予想されており、同5月16日には防除対策情報も発表されています。斑点米カメムシ類の生息地を減らすため、畦畔や農道に加えて休耕田や雑草地を対象に、6月上旬から出穂10～15日前まで数回、草刈り作業を地域でまとまって行ってください。

4 お知らせ

「あきたこまち」は、令和7年から「あきたこまちR」へ切り替わります！

- 「あきたこまち（母）」に、カドミウム低吸収品種「コシヒカリ環1号（父）」を交配した後、「あきたこまち」を7回戻し交配してできた品種（交配育種）です。
- 収量、品質、食味等の特性は「あきたこまち」と同等で、カドミウムをほとんど吸収しないという特性を持っています。
- 「あきたこまちR」に切り替わっても、これまでの「あきたこまち」と栽培管理は同じです。

詳しくは↓



秋田米栽培情報発信LINE始めました！



水稻栽培に関する情報をリアルタイムで発信します。

- 秋田県内の水稻生育状況
- 水稻・大豆の技術情報
- 異常気象対策
- その他、秋田米に関する情報

など



友達追加は
こちらから

令和6年度農薬危害防止運動（令和6年6月1日から8月31日まで）

近年、全国で農薬の使用に伴う周辺住民等に対する被害事例が発生しています。農薬の使用時は周辺への飛散防止に努めるとともに、農薬ラベルによる使用基準（単位面積あたりの使用量や希釈倍率等）の確認と使用履歴の記帳を徹底しましょう。

問い合わせはJAまたは農業振興普及課まで ～次回発行は6月下旬頃～